ある町の天気相談所

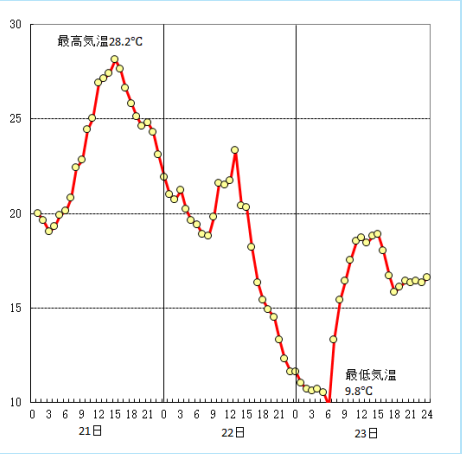
Vol.107　2026.11.06

令和８年11月号



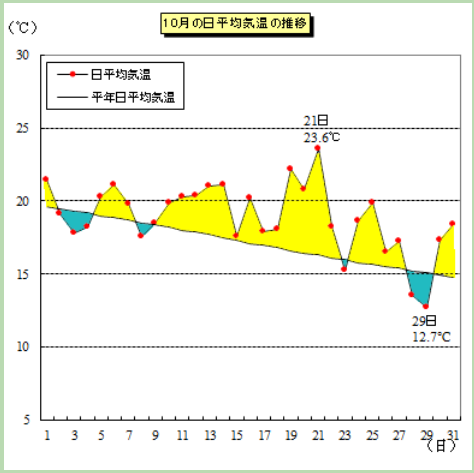
気温の変化

秋は気温の変化が大きくなることが多くあります。10月も気温の変化が大きくなった日がありました。21日は北にある低気圧に向かい南西からの風が吹き、28・2℃を記録しました。市役所で27℃以上を観測した最も遅い日となりました。その後寒気が入り、23日の最低気温は9・8℃と2日間で18・4℃の差がありました。



10月の気候

10月は、周期的に天気が変わりましたが、降水量は少なく、晴れの日が多くなりました。雨が降った日は15日ありましたが、月合計降水量は43・5ミリ（平年の24パーセント）と10月としてはこれまでで2番目に少なくなりました。気温ははじめ平年並みのほか高くなり、月平均気温は18・9度とかなり高く、10月として2番目に高くなりました。月合計日照時間は173時間と平年の117パーセントと多くなりました。



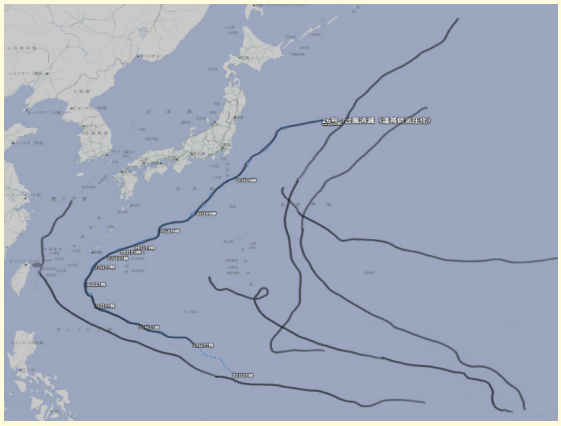
一ヶ月予報（気象庁発表）

天気ははじめ平年同様に晴れの日が多いですが、後半は低気圧や前線の影響を受けやすいため平年に比べ晴れの日が少ない予想です。平均気温は「高い」、降水量は「平年並みか多い」、日照時間は、「平年並みか少ない」となる見込みです。

10月の台風

10月は台風第28号から30号までの3つ発生し、26号が1日に伊豆諸島を進むなど5つの台風が日本付近に進みました。上陸した台風はありませんでしたが、南西諸島や小笠原諸島などの島しょ部に影響をあたえました。

複雑な動きをする台風が多く、28号はハリケーンが東経180度線を越えたため、台風として名前が変わり、30号は先島諸島で動きが遅くなり丸一日近く同じような位置に停滞、31号は一旦北東寄りへ進むが再び西へ進み、再び北東方向へ向きを変えるなどしました。北緯30度より南を進む際は発達した台風が多く、台風30号は猛烈な台風、28号、29号、31号は非常に強い台風まで発達しました。



天気用語の基礎知識

木枯らし1号

晩秋から初冬にかけて吹く北よりの強い風の最初のこと。東京地方と近畿地方でのみ発表しておりやや基準が違う。東京地方では10月半ばから11月末までの期間で、西高東低の冬型の気圧配置、風向が西北西から北で最大風速が8メートル以上が最初に吹いた日となっている。近畿地方では二十四節気の霜降（10月24日前後）から冬至（12月22日前後）までに西高東低の気圧配置で北寄りの風が最大風速8メートル以上となっている。木枯らし2号など1号以外の発表はない。

・・・・神峰の山から・・・・・・・・

今年は台風の発生が多く、10月末の時点で31個と2013年以来の多さとなっており、日本に近づいてくる台風も多くなりました。近年、世界各国の数値予報やそこから得られる台風の進路の情報がインターネットで見ることができるようになり、ここ数年は人工知能の技術を用いた数値予報の情報もでてきました。今年の台風は進路が複雑になることが多く、これらの予想もとても幅が大きくなる傾向がありました。予想精度を見るには良いのですが、あいまいになってしまい困ることもありました。

ここ数ヶ月は毎日、台風の資料をみていたような気がします。